

■金浜地区の復興パターン案について

被害の状況		・ 勢いのある津波が防潮堤を乗り越え、市街地全域に大きな被害を及ぼした。 ・ 浸水面積は 29.4ha にわたり、浸水高は TP+10.8～13.3m となり、最大浸水深が 12m に達した。 ・ 浸水区域内の建物の 90.9% が流失または撤去となる被害を受けた。	
復興まちづくりの考え方		・ 比較的頻度の高い津波※¹ に対しては、防潮堤等のハード整備により防ぎ、今後、起こりえる最大クラスの津波※² に対しては、ハード整備とソフト対策を組み合わせた多重防災型まちづくりを行う。 ・ 住宅地は、予想浸水深※³ の大きい区域を高台等への移転による確保を検討するとともに、小さい区域は、予想される建物被害の状況に応じ現地再建及び建物の構造規制を組み合わせる。 ・ 非可住地であっても、安全に避難できるよう避難路の整備や津波避難ビル等の整備を行う。 ・ 三陸縦貫自動車道のインターチェンジの整備を活かした地域の魅力づくりを進める。	
復興パターン案	イメージ図	案A：予想浸水深が大きい区域を非可住地とし、住宅を背後地や周辺の高台へ移転	案B：予想浸水深が大きい区域を非可住地とし、住宅を背後地や周辺の高台へ移転 2線堤兼用道路を整備し、それより海側を非可住地、山側を可住地とする
		市道の整備 (八木沢方面への避難道路整備) 高浜方面への避難道路の整備 宮古南 I C 三陸縦貫自動車道ルート 概ねの範囲 (500m 範囲) 防潮堤の嵩上げ 避難場所や避難路を検証する ボックス 避難道路の整備 凡 例 - 非可住地 - 移転候補地 - 避難場所 (代表的な箇所のみ表記) - 津波避難ビル等 - 防潮堤 断面イメージ 住宅 商業施設、工場、緑地など 市道 国道 防潮堤	市道の整備 (八木沢方面への避難道路整備) 高浜方面への避難道路の整備 宮古南 I C 三陸縦貫自動車道ルート 概ねの範囲 (500m 範囲) 2線堤兼用道路整備 防潮堤の嵩上げ 避難場所や避難路を検証する ボックス 避難道路の整備 凡 例 - 非可住地 - 可住地 - 移転候補地 - 避難場所 (代表的な箇所のみ表記) - 津波避難ビル等 - 防潮堤 断面イメージ 住宅 住宅 商業施設、工場、緑地など 市道 国道 防潮堤
	特 徴		・ 全域が非可住地となるため、従前の場所から離れた場所でなければ移転先が確保できない場合や、住宅地が分散する場合がある。

※1 概ね数十年から百数十年に一度程度で発生すると想定される津波 ※2 今回と同様の津波 ※3 今後、起こりえる最大クラスの津波により予想される浸水の深さ